

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H26 入学 現5年	70.9 (1.06)			68.0 (0.96)			
H25 入学 現6年	61.9 (1.01)	71 (1.00)	50 (0.92)	67.4 (1.03)	64 (1.01)	51 (1.00)	62 (1.01)
H30 正答率の全国比		(1.00)	(0.91)		(1.00)	(0.99)	(1.02)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

- ・国語科では、「漢字」は読み書きともに、ほぼ習得できている。
- ・国語科では、「書くこと」の領域に課題が残り、自分の考えを説明したり、条件に合わせて文章を書いたりすることが苦手である。
- ・算数科では「技能」の領域はよく身につけているが、活用問題の正答率が低く、問題文の情報を整理し、文意を理解することが不十分であることが課題である。
- ・理科では、実体験や視覚的情報を整理する能力は身につけており、比較する能力も身につけているが、活用問題の正答率が低く、状況をイメージしたり、憶測し、見通しをもつ力が不十分であるところに課題が残る。

【意識調査】

- ・「自分にはよいところがあると思えない」児童、「先生は自分のよさを認めてくれていると思えない」児童が、ともに15.9%いて、県や全国平均に比べやや高い。また、「将来の夢や目標を持っていない」児童が29.5%と県や全国平均に比べ2倍ほど高くなっている。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童、「人の役に立ちたい」と思っている児童は、ともに100%であった。
- ・基本的な生活習慣（「早寝・早起き・朝ごはん」など）は、大半の児童が定着している。就寝時刻が毎日同じではない児童が29.6%で、県や全国平均に比べ高い。
- ・家庭学習については、計画を立てて、宿題や予習、復習に取り組んでいる児童の割合は、県や全国平均よりも高い。平日の学習時間が1時間以下という児童が15.9%いて課題が残るが、県や全国平均に比べると低い。
- ・週末に「家で勉強や読書をしている」児童が65.9%、「家でテレビ・ゲーム・インターネットをしている」児童が90.9%と高く、「家で家族と過ごしている」児童は84.1%と、県や全国平均よりも高い。
- ・「地域の行事に参加する」児童が88.7%と多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 「めあて」や「まとめ」の提示、「ふりかえり」の設定など、全校で共通した学習過程を取り入れ、指導方法を改善する。
- ・「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1」及び「授業づくりのステップ1・2・3 vol.2」を活用し、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「ふりかえり」の5つを意識した授業を継続して実践し、児童の学力向上に努める。
- ・問題文を読んで、問題場面を具体的にイメージすることが不十分である。具体的には、何を問われているのかを的確にとらえさせるために、文章問題に線やしるしを書き入れたり、図に表したりすることを全学年で取り入れる。授業の中で繰り返し指導し定着させる。
- 自分で考えたことをノートなどに書かせる活動や、考えたことなどについて話し合わせる活動を授業場面で設定する。
- ・条件を与えて文章を書く、振り返りを書く、まとめを書く活動を、授業の中に多く取り入れる。
- ・全ての教科において、「条件を設定されたなかで自分の考えを書く」活動を、意図的、計画的に授業に取り入れる。
- ・話し合い活動では、友だちの考えを聞いて交流したくなるような、課題を設定する。また、提示の仕方を工夫し、比較したり、関連付けたりしながら自分の考えを発表できる授業づくりを行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の充実を図り、児童によりよい生活習慣や学習習慣を身につけさせる。
- ・家庭学習ノート(自主学習)の点検を級外が担当し、毎日継続することができているので、今後も全職員でサポートを継続する。
- ・「学校だより」「八束穂」(学習部だより)を定期的に発行し、地域や保護者との連携を図る。
また、児童の家庭学習ノートを紹介し、保護者への啓発、家庭学習の充実を図る。
- ・各学年で家庭学習時間を設定し、生活チェックや学習時間やテレビ・ゲーム等の時間の記録を書いた「やまびこカード」の振り返りを通して、家庭学習の定着を図る。
- ・誤答の多かった問題に対し、児童が苦手意識を軽減するよう、授業や宿題等で取り上げ取り組ませる。
- 地域人材を活用した学習を進め、「ふるさと山内」を愛し、自分に関わる人を大切にする児童を育てる。
- ・週3回の「花まるタイム」(朝の15分間)では、花まるサポートとして、地域の方々や保護者に学習支援をしていただいている。児童一人一人に声をかけながら、花まるをつけ、児童に関わりをもってもらおう。地域や保護者に認められる機会を多くとることで、児童の自己肯定感を高める。
- ・地域で活躍する団体や人材を、各教科の学習等でゲストティチャーとして招き、様々な体験学習をしたり、授業支援サポートをしてもらったりしながら、専門的知識や技能に触れ、豊かな情操を培う(黒髪大学、婦人会など)。